

安来高校植物図鑑（2021年7月）

和名: ネジバナ（捩花）

長い茎に花が螺旋状に並び、捩(ねじ)れた花ということでこの名前がつけました。基本的には下から時計回りにねじれるようですが、逆回りの個体も結構たくさんあり、集団で咲いている姿を見ていると目が回りそうです。じっくり観察してみると、ねじれていないものもあることに気がきます。不思議な花ですね。昨年度中庭で大量に咲いていたことを、理科の田中先生から教えていただきました。見逃していたことが残念だったので、今年はしっかりと写真に収めました！この花はラン科の仲間で、園芸種の蘭と比べると花の形が似ています。身近で見られる野生のランということになります。個人的にはこの花をみるとDNAのらせん構造を思い浮かべてしまいます。職業柄でしょうか。



念だったので、今年はしっかりと写真に収めました！この花はラン科の仲間で、園芸種の蘭と比べると花の形が似ています。身近で見られる野生のランということになります。個人的にはこの花をみるとDNAのらせん構造を思い浮かべてしまいます。職業柄でしょうか。



和名: ミヤコグサ（都草）

葉の緑色が濃く、その上に鮮やかな黄色の花が咲いてとても目立ちます。咲いていると遠くから見てもすぐにわかります。名前の由来は諸説あり、京都の大仏の前にたくさん咲いていた、薬草名の「脈根草(ミヤッコソウ)」がなまった、など様々です。昔の人がかぶっていた烏帽子に似ていることから、エボシグサという別名もあります。花柄の先に花が1～3個つきます。4個以上ついていたら、帰化植物のセイヨウミヤコグサであると考えられます。



和名: ヘラオオバコ（篋大葉子）

オオバコという野草があります。オオバコと比べると葉がヘラのような形になっていることからこの名前がつけました。それよりも、オオバコは背が10～20cmなのに対し、ヘラオオバコは50cm程度はあり、ひょろりと長いので、見た目ですぐに違いがわかります。写真は花が咲いているようには見えませんが、これでも一応咲いています。横に飛び出ているのは雄しべで、その先端についているものが葯になり、風に揺れて花粉を飛ばすそうです。花は下から咲き、上へと進んでいきます。下の茶色になった部分は花が咲き終わったものです。



ようには見えませんが、これでも一応咲いています。横に飛び出ているのは雄しべで、その先端についているものが葯になり、風に揺れて花粉を飛ばすそうです。花は下から咲き、上へと進んでいきます。下の茶色になった部分は花が咲き終わったものです。

今年もハグロトンボが飛び始めました。体に緑色の金属光沢があれば雄で、黒褐色ならば雌だそうです。写真の個体は雄ですね。まるでチョウのように4枚の羽根をはばたかせる姿は優雅で、見とれてしまいます。水生植物が多いところに生息しているトンボです。

